

平成26年度国立大雪青少年交流の家第1回施設業務運営委員会事業部会議事要旨

日時：平成26年5月26日（月）14:50～16:00

場所：国立大雪青少年交流の家第3研修室

運営委員出席者：大島委員（部会長）、山形委員、武井委員（浜田委員代理）、小島委員（永澤委員代理）、目黒委員、浪岡委員

計6名

欠席者：板東委員、植田委員

計2名

大雪青少年交流の家

出席者：小堀次長、松浦事業推進室長、伊藤企画指導専門職、久保企画指導専門職
入江事業企画専門職員、大畑事業推進室員

計6名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●開会宣言

会議時間・資料確認、欠席委員の報告、施設業務運営委員及び事業部会担当職員の自己紹介。

○以下部会長による進行

●事務局

最初に、平成26年度事業部会の方針について「『新しい公共』型管理運営のための事業部会二次試行計画」を基に説明。

○部会長

各委員については主体的に、施設とともに事業を作り上げていくことをお願いする。
それでは議題1から4について説明してほしい。

●事務局

本年度の事業部会としては「ゆーすフェスタ2014」「白金カップクロスカントリースキー記録会」「冬のレクススポーツ祭典」及び文科省委託事業「ユースオブワールド2014」に取り組んでいきたい。まず最初に「ゆーすフェスタ2014」から説明する。

●事務局

昨年度の評価をふまえ、今年度の変更として以下2点を説明。

1. 協力団体同士の相互交流とモチベーション向上のため「前夜祭」を企画している。

2. 体育館のパフォーマンス時には他のブースを一時閉鎖し、集客を図る

□委員

昨年度の様子を見たが、外と中ではどのようなパフォーマンスが行われているかわかりにくい。放送を活用して周知してはどうか。また、資料の中に昨年度はなかった「エンディングのもちまき」とあるが説明していただきたい。

●事務局

いただいた意見のとおり、今年度は放送を活用してより各ブースの集客を図ることとする。

もちまき（おかしまき）については、昨年度の反省をふまえエンディングに行くことで小さな子供を含む観客を最後まで確保しておくのがねらいである。

□委員

運営の上で大きな変更点は先ほど伺ったが、具体的内容について新たなプログラムなどがあればお聞かせ願いたい。

●事務局

地元高校生による企画・立案及び運営のブースを設ける。また高齢者大学によるブースや、エンディングの「はやねはやおきあさごはん」体操を行う対象の未就学児の参加などから、この事業が世代間交流の場となることも期待して、ブース展開計画をしている。

○部会長

昨年度について、道内青少年教育施設によるブースの集合や森の中を通過の音楽会はすばらしかったと思う。とても「大雪らしさ」がでており、参加者にも伝わっていたと思う。今年度もすばらしいものにしていただきたい。

○部会長

次の議題2について説明いただきたい。

●事務局

議題2「白金カップクロスカントリースキー記録会」及び議題3「大雪冬のレクスポーツ祭典」については、開催までの日程に余裕があるため事業開催の日程確認にとどめさせていただきたい。

議題2の事業については12月6日および7日、議題3の事業については2月21日と22日になっている。この2事業については、昨年度の事業報告書を参考に、次回開催の部会にて委員の方から意見をいただきたい。

○部会長

委員については上記提案を了承する。

○部会長

続いて議題4の「ユースオブワールド2014」について説明いただきたい。

●事務局

文科省の委託事業として応募し採択された旨を初めとして資料をもとに国際交流事業の概要及び教育効果の高い交流プログラムの立案・評価を行う企画委員として事業部会委員に参画願う旨説明。

□委員

留学生とは、大学生がメインなのか。

●事務局

北見工業大学及び帯広畜産大学の留学生を主な対象としている。また、事業は留学生が集まりやすい時期、つまり大学の長期休みをはずした時期で設定している旨を追加説明。

□委員

年間2回あるが、夏と冬は両方参加する必要があるのか。

●事務局

参加者は継続になる。事業に参加するだけでなく、事業完了後、参加した者同士がお互い協力してアクションプランを行っていくことも事業のねらいである。

○部会長

参加する15名の留学生が実行委員も兼ねるということでよいのか。

●事務局

日本人参加者の15名が実行委員となる。実行委員が企画・運営に携わり、リーダーシップを発揮していくことが期待される。

□委員

平成25年度美瑛町の観光客が大幅に増えた。要因としてはアジア圏の観光客が大幅に増えているためと考えられ、国際交流については注目している。2点質問がある。

1. 海外からの外国人ではなく、国内の留学生を対象にしている理由を説明してほしい。
2. 交流する相手国が、近年あまり関係性の良い国ではないと思うが、意図的か。

●事務局

1については予算の都合がある。道内の留学生は海外からの渡航費がかからない。また、開発したプログラムは、低予算で他の施設でも活用できるようにしていきたいねらいもある。

2については意図的である。留学生が日本に対して好印象を抱き、帰国後も母国と日本の架け橋となるよう期待しているところである。

□委員

先ほども一部触れられていた話題であるが、北見工業大学と帯広畜産大学に絞った理由は何か。また、交流の対象を少年ではなく、青年層に絞った理由とはなにか。

●事務局

両大学は昨年度の協力団体であった経緯がある。また工業・農業の産業に特化し、自国の産業を担うために留学している東アジアの学生が多いところが理由である。

青年層に絞った理由としては、道立施設ではイングリッシュキャンプといった少年層のプログラムはあるが、青年層を対象としたものはない。今後開発したプログラムを提供していく観点からも、今回はあえて対象を青年層に絞っている。

○部会長

国費を投じて開発したものを地方に普及していくという考えに賛同。質の高さが求められる。

□委員

資料の予算書を見たが、留学生15名と日本人15名の計30名を年間2回継続して集め、体験活動を行うのにこの額で足りているのか。

●事務局

文部科学省からの委託経費では、全てを充足することはできない。日本人については道内各地から集めるため旅費もかかる。そのため、大雪の予算およそ70万を使用し事業に補填していくこととなる。

□委員

夏と冬の事業については同じ参加者で行っていくが、年度またぎについてはどうか。3カ年と聞いているが、年度をまたぐ場合は違う参加者でもよいのか。

●事務局

良い。

□委員

実行委員に留学生が入るのはどうか。

●事務局

それについては、文部科学省からも提案されている。ただ、最低限のコミュニケーションをとる必要があるため、初年度からは難しいだろうという判断である。ただ、今後の予定としては、そうなっていくとよいと考えているので、募集結果次第だと思う。

○部会長

寄せ集めの実行委員について導いていくのはやはり事務局の役割ではないか。また、事業の評価を外からも具体的に見えるような体制になるよう事務局側にはお願いしたい。

○部会長

その他、質問意見等はないか。

●事務局

今回委員の方からいただいた意見を総括し、事業を進めていきたい。

●事務局

最後に、冒頭で説明した「二次試行計画」の4番目に記載されている「特別企画事業の実施」について提案したい。稼働率を目標値まで達成させるための閑散期対策として、他の部会と連携しながらスポーツ大会・婚活イベントなどの企画について考えている。委員の方々が持っているネットワークでどのような参画が可能かお聞かせいただきたい。今回は時間の都合もあるため、次回の部会で案をいただければ幸い。

○部会長

特別企画事業については宿泊を伴うものを各委員のほうで検討願いたい。

○部会長

(閉会宣言) 以上をもって平成26年度第1回事業部会を終了する。